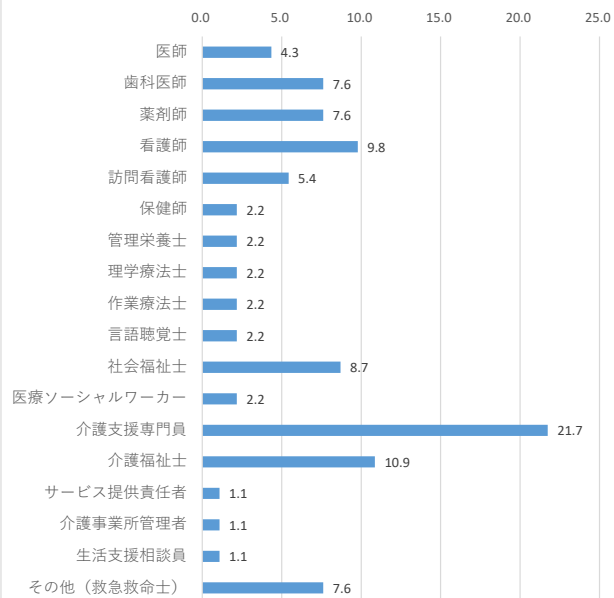
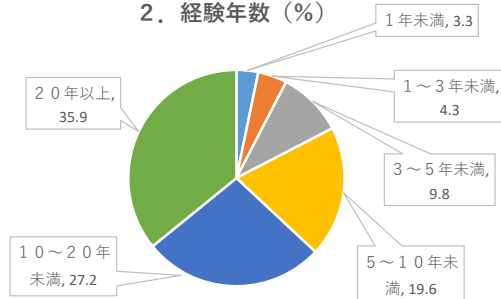


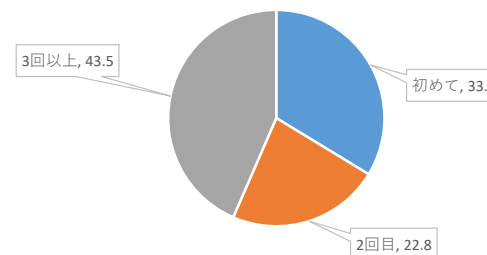
1. 職種（%）



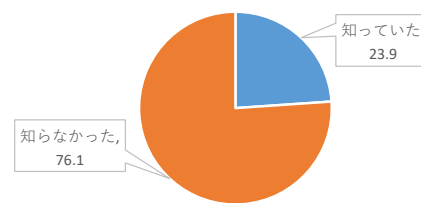
2. 経験年数（%）



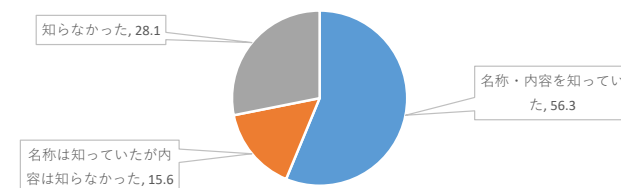
3. 参加回数（%）



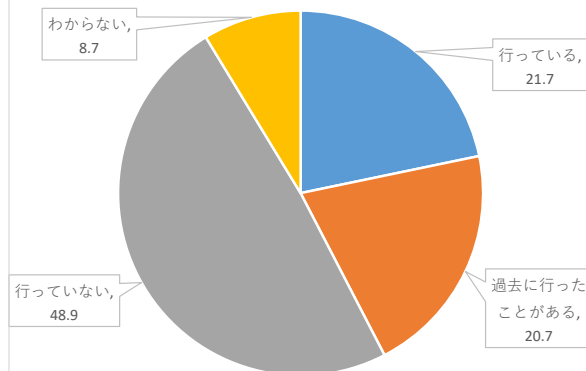
4. 「山梨県救急活動プロトコル（一次救命処置等プロトコル）」を知っていたか（%）



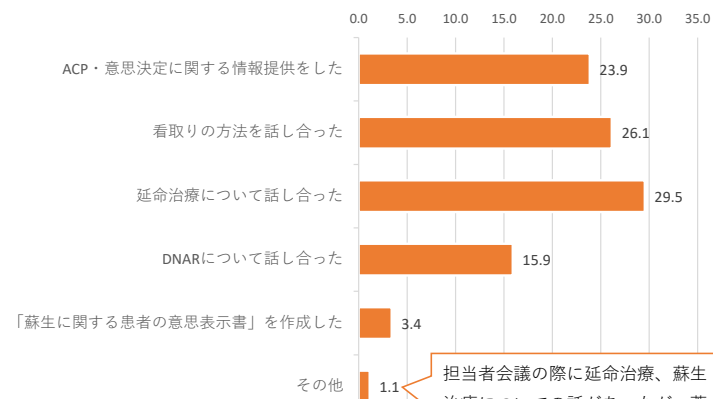
4-I. 4で「①知っていた」と回答された方は、令和5年4月から「第6章 人生の最終段階にある傷病者が心肺蘇生等を希望しない場合の対応について」が追加・運用されていることを知っていたか（%）



5. 「人生の最終段階にある心肺蘇生を望まない患者・利用者」への支援を行っているか（%）

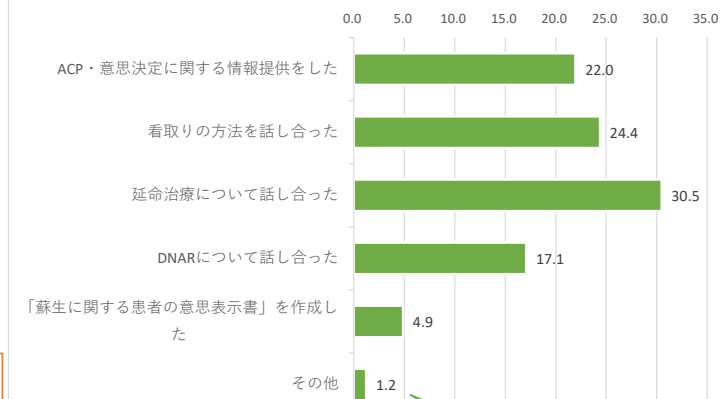


5-I. 5で「①行っている」「②過去に行ったことがある」と回答した方は、『患者・利用者』に向けてどのような支援を行ったか（複数回答）（%）



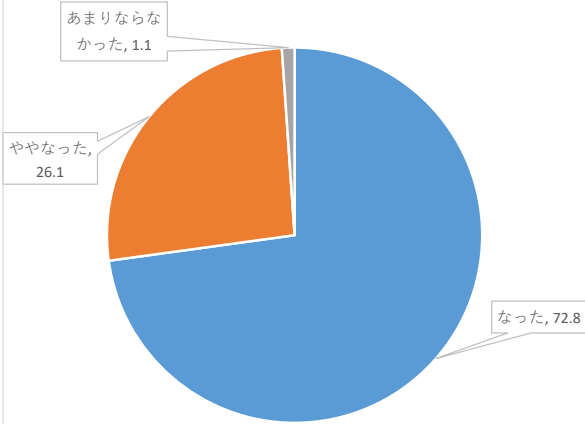
担当会議の際に延命治療、蘇生治療についての話があったが、薬剤師の在宅業務としてとくに変わった支援は行っていない。

5-Ⅲ. 5で「①行っている」「②過去に行ったことがある」と回答した方は、『家族等（本人・医療介護従事者以外）』に向けてどのような支援を行ったか（複数回答可）（%）

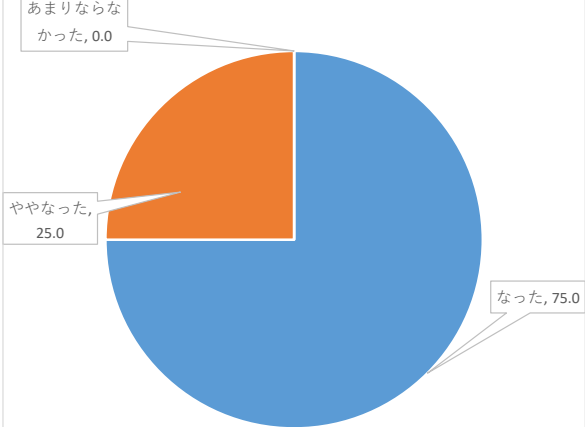


独居の方の為、家族等の参加はなかった。

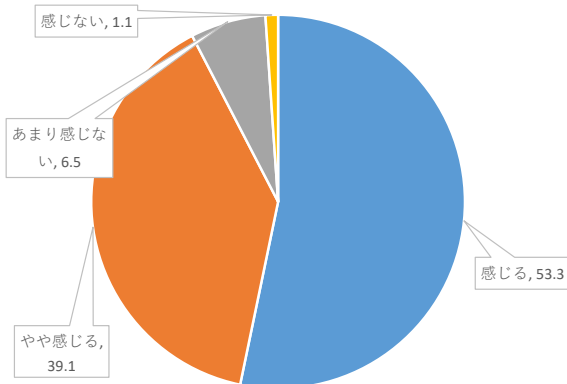
6. 多職種と「顔の見える関係」をつくるきっかけになったか（％）



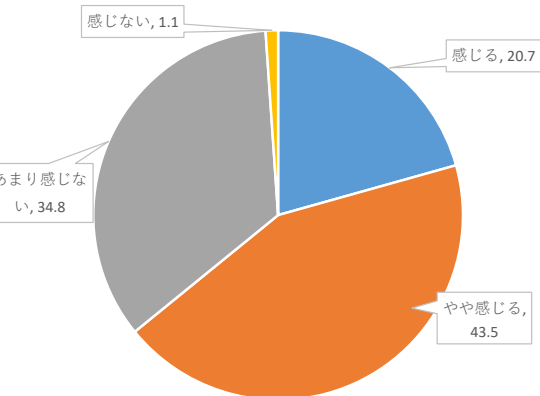
7. 多職種連携に向け、互いの業務や役割について理解する機会となったか（％）



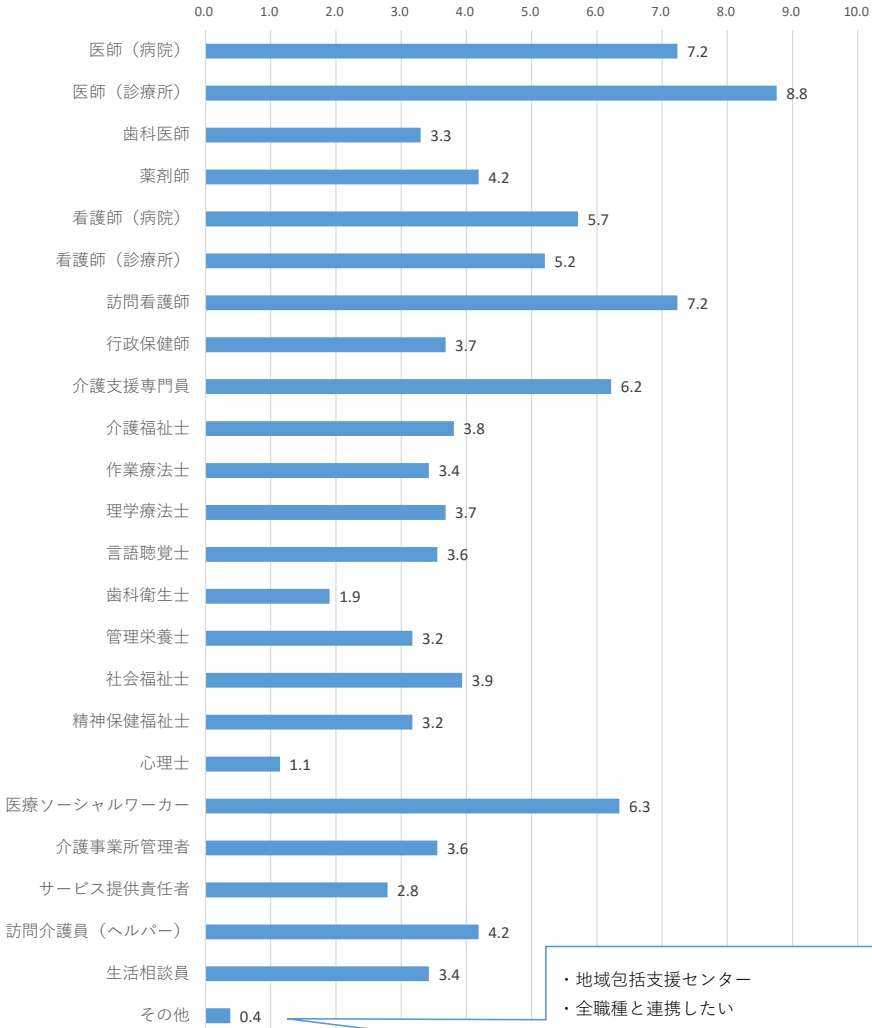
8. 交流会でできたつながりやネットワークを今後の業務に活かすことができたと感じたか（％）



9. ここ1年の間で、医療と介護の連携が進んでいると感じるか（％）



10. 今後、より連携を深めていきたい職種はあるか（複数回答可）（％）



1 1. 今後の医療・介護連携に向けて、どのような交流会があると良いと思うか

- ・今回のような顔の見える関係作り。
- ・お互いの職種について質問したり仲良くなったりする交流会。
- ・本日のような交流会。
- ・お互い褒めまくる交流会。
- ・コアな地域での交流機会に参加したい。
- ・様々な職種の方との事例検討会（連携の好事例など）。
- ・情報交換、意見交換会があると良い。
- ・医療介護の連携がやり易くなるようにお互いの業務内容が、理解できるような内容。お互いの立場からの困りごとややるべき事の共有など。
- ・医療従事者、医師の皆様に高齢者施設の内情を理解してほしい。
- ・今回の顔の見える交流会に介護施設の職員の方も参加してほしい。
- ・災害時の連携。
- ・独居の方への支援や連携について。
- ・介護離職について。
- ・地域における特性。
- ・「BCPに関すること」「ばけてもいいよ」という価値観の共有。
- ・医療、介護、福祉に関わる方々の死生観を深めるような学びの場があると良いと感じた。
- ・高齢者がよく飲んでいる薬についての勉強会や、それについてのグループワーク。
- ・テーマを決めた座談会、困難事例の報告会。
- ・在宅業務において異業種の方からの要望など聞いてみたい。
- ・先生方のご意見が聞けると良い。
- ・このような研修会を継続して定期的に行ってもらいたい。事例検討会なども含めて。
- ・コロナ禍で失われた連携再構築にはまだ時間がかかると思う。参加者は対面に飢えているからこそ、今は研修会が盛会に終わることが多いようだ。引き続き大きな苦勞をかけるが、交流会の定期開催を望む。
- ・内容というよりも頻度を増やすことができれば良いと思う。
- ・「顔の見える関係」ととても大切と思う。今後もぜひ継続してほしい。

(※一部抜粋)

1 2. その他、ご意見・ご感想等

- ・素晴らしい機会を作ってください、ありがたく思う。情報収集に努めたり、職員に周知したいと思う。
- ・多職種と関わり、地域のことを知ることができた。
- ・難しい内容だったが知ることができて良かった。対面はやはり良いと感じた。
- ・色々な職種を詳しく知るいい機会になった。
- ・他職種の皆様と、対面式で交流できるのはとても楽しかった。また、参加したい。
- ・今回の研修でプロコトルを知るきっかけとなった。先生のお話も分かりやすく学びになり、今後に役立てていきたいと思う。
- ・自分の職種のことを褒められて嬉しかった。自分以外の職種からどのようにみられているかがわかった。
- ・介護系参加者も多く、DNARについて丁寧な説明が必要だと感じた。
- ・この交流会を通じて、各職種がスムーズな活動・運営ができることを願う。
- ・場違いで気が引けてしまいましたが、介護の現場での役割は傾聴、状態の変化をキャッチしていく中で、ふとした時に本音を話せるような環境や信頼関係を築き、知り得た情報を関係者と素早く共有できるような関係でありたいと考える。
- ・ACPやDNAR意向について確認する際に、本人にとってネガティブな内容のため聞かれることに憤慨されたり、明確な答えを出せなかったりすると当日GWでも話題に挙がった。抵抗なく考えられるよう（聞き手側のスキルもあるが）地域文化としてそういったことを考えていく仕組み作りがあるといいなと思う。例えば学校教育の道徳や倫理の時間にACPやDNARの出前講座があれば、次世代が抵抗感なく自身の人生について考えるきっかけや文化つくりになると思う。また高齢者と孫の会話の切り出しで「今日学校どうだった？」という話題をよく耳にする。その際に「今日の道徳でね～」と続けば、ACPやDNARについて推進されていくのではないかな。いずれにしても、現段階では専門職が抵抗感なくACPやDNARについて考えられる積み上げが必要。
- ・地域ごとに班を分けてくれているが、地域との関係はかなり築けている。違う地域の人と交流を持ちたかった。
- ・救急ではないが対応困難な施設の入居者様を一時的に入院させて頂ける病院を作って欲しい。慢性的に人手不足の現場職員を守る為にもそういう連携を強く希望する。
- ・今回の交流会は、医療・消防がメインの議題であったため、介護・福祉が中心となった交流会への参加できると良いと思う。

(※一部抜粋)